

# 総合型地域スポーツクラブを核とした活力ある地域づくり推進事業実践事例

都道府県名 高知県 受託団体名 (財)高知県体育協会(とさ広域スポーツセンター)

実践テーマ 障害者のスポーツ参加機会の向上

～障害のある人もない人も住み慣れた地域でスポーツを楽しめる環境を整備する～

## 【テーマ設定の理由】

障害のある人が身近な地域でスポーツを楽しんだり、障害のある人とない人が一緒になって触れ合う場や機会が十分でない現状がある。そこで、「障害者のスポーツ参加機会の向上」をテーマに設定し、総合型クラブが地域の中心となって、障害の有無に関わらず、住み慣れた地域でいつまでもスポーツに親しむことができる環境づくりについて考える。

## 実践クラブ評価委員会

稲田俊治(国立大学法人高知大学教授)  
宮地彌典(高知県障害者スポーツ指導者協議会会長)  
伊藤篤雄(高知県体育指導委員連絡協議会会長)  
大坪豊寿(高知県スポーツ栄養士研究会会長)  
田井直子(NPO法人総合クラブとさクラブマネジャー)

## 課題解決のために連携をとった機関・団体

- 高知県地域福祉部障害保健福祉課
- 高知県障害者スポーツ指導者協議会
- 社会福祉法人高知県社会福祉協議会

## 【上記機関・団体と連携をとった効果】

「ノーマライゼーション」の基本理念のもと、誰もが地域で安心して暮らせる「共生社会」を目指し様々な取組を行っている県障害保健福祉課との連携や、年齢や障害の有無に関わらず、誰もが住み慣れた地域で、その人らしく暮らしていくことができる「地域福祉」を進めている県社会福祉協議会の取組は、総合型クラブの理念とも一致するものがあり、障害者スポーツを通じた地域活性化を目指すうえで大きな効果があった。また、県障害者スポーツ指導者協議会からの指導者派遣などの協力は、本事業の充実に繋がるとともに、指導者協議会としても、指導者の活動の場が増えるという相乗効果があった。

## 実践クラブ名 高知チャレンジクラブ

### 【クラブ概要】

- ・設立年月日 平成 19 年 3 月 26 日 設立
- ・クラブ所在地 高知県高知市春野町内ノ谷1-1
- ・クラブの特色 高知県立障害者スポーツセンターを活動の拠点とし、障害がある人もない人も、子どもからお年寄りまで全ての人々がスポーツ活動を通して、仲間づくりや社会参加、また、自分の可能性に挑戦することの楽しさを実感できるクラブづくりを目指している。  
自然体験活動(ヨット、スキューバダイビング、スキー等)は、障害があるがゆえに実施することが困難であるが、サポートスタッフの養成や安全管理等への配慮により、障害児・者が気軽に安心して参加しやすい環境が整備でき始めている。
- ・クラブマネジャーの活動状況 非常勤(4名):有給(3名)・無給(1名)
- ・会員数(H21.7.1現在) 164 人 ・定期活動種目数 14 種目
- ・会費の種類と金額 ●大人:2,000円/年(保険料別)  
●こども:1,000円/年(保険料別)  
●ファミリー:2人目から500円引き
- ・平成21年度総予算額 18,000,000 円

## 実践プロジェクト①

### 障害者スポーツ体験教室

#### ◆プロジェクトのねらい

小・中・高等学校の総合的な学習の時間や総合型クラブ等が実施する教室・イベント等に出向き、障害者スポーツ及び総合型クラブの現状について知ってもらうとともに、自分たちの住み慣れた地域にある総合型クラブで、いつまでもスポーツに親しむことができることを目的に実施する。

#### ◆実施概要

期間：平成21年6月6日～平成22年2月16日（全46回）

場所：高知県内の小学・中学・高等学校他

指導者：障害者スポーツ選手・障害者スポーツ指導員

内容：障害者スポーツ体験・デモンストレーション・選手との懇談

#### ◆参加者数 2,863名

#### ◆活動の様子



#### ◆評価

昨年度からの課題であった市町村レベルへの広がりについては、学校以外に障害者団体、県市町村社会福祉協議会、医療機関等での開催が多くなり、着実に県全体に広がってきた。県全体に広がりつつあるこのプロジェクトは、クラブ自らが積極的に地域へ出向くことにより、クラブの存在をアピールでき、障害者の理解にも繋がる意味あるプロジェクトに発展した。

## 実践プロジェクト②

### サポートダイバー養成講習会

#### ◆プロジェクトのねらい

障害を持った方や高齢の方が気軽に安心してダイビングが行える環境を作り上げていくための人材を育成するとともに、サポート体制の整備を目的に実施する。

#### ◆実施概要

期間：平成21年10月3日～4日

場所：高知県立障害者スポーツセンター・海辺の果樹園

指導者：日本バリアフリーダイビング協会公認インストラクター・公認サポートダイバー

内容：障害学（聴覚・視覚・肢体・精神）・安全対策・プール実習

#### ◆参加者数 16名

#### ◆活動の様子



#### ◆評価

平成19年度に養成した4名の「JBDA公認初級指導員」が講師となり、20、21年度で合計23名の「JBDAサポートダイバー」の養成に繋がった。指導力の高い指導者のもとで障害者は安心してスポーツに取り組むことができる。昨年度に引き続き、高知大学医学部の学生が受講しており、医学的知識を備えたサポートダイバーの養成に繋がった。

### 実践プロジェクト③

### バリアフリーダイビング体験教室

#### ◆プロジェクトのねらい

海の世界という非日常的な体験を通して感性豊かな心を育み、自分自身の新たな可能性を発見するとともに、高知の雄大な大自然を仲間たちと満喫することを目的に実施する。

#### ◆実施概要

期日：平成21年10月18日

場所：高知県幡多郡大月町竜ヶ迫白崎

指導者：日本バリアフリーダイビング協会公認インストラクター・公認サポートダイバー

内容：ダイビング体験

#### ◆参加者数 23名

#### ◆活動の様子



#### ◆評価

サポートダイバー養成講習会を修了したサポートダイバーや障害者スポーツ指導員等のサポートのもと、6名(肢体不自由者3名、視覚障害者3名)の参加があり、全国的にも稀な障害者のマリンスポーツの普及に努めた。今年1月に「高知チャレンジクラブ」の支部的役割を担う「ユニバーサル四万十」が県西部に設立した。今後、ダイビングの拠点として活動し、全国展開を図っていく計画である。

### 実践プロジェクト④

### ユニバーサルフェスティバル2009in東部

#### ◆プロジェクトのねらい

「子ども・高齢者・障害者」そして、地域住民との交流の場を持つことにより相互理解を深めるとともに、様々なスポーツ・文化活動を通じて、運動・健康への関心を高めることを目的に実施する。また、障害者の高いパフォーマンスを間近で見ることにより、障害がある人の可能性、人間の可能性を地域住民に感じてもらう機会とする。

#### ◆実施概要

期日：平成21年9月27日

場所：中芸広域体育館「結いの丘ドーム」

指導者：障害者スポーツ指導員・フェスティバル実行委員会委員

内容：北京パラリンピック日本代表選手との交流(ボッチャ)・スポーツと文化体験等

#### ◆参加者数 277名

#### ◆活動の様子



#### ◆評価

このフェスティバルには、障害の有無に関わらず子どもから高齢者まで多くの参加があり、特に、東部地域を中心とした障害者スポーツの発展とスポーツを中心とした地域の活性化、また、今後、東部地域の障害者スポーツの拠点なり得る東部地区各社会福祉協議会及び東部地区各総合型地域スポーツクラブとのネットワーク化に繋がるイベントとなった。

## ◆プロジェクトのねらい

障害者(児)及び健常者(児)を対象とし、南国高知県ではあまり体験することのできない雪遊びやスキー体験等を通して、感性豊かな心を育むとともに、参加者同士の交流・情報交換等を目的に実施する。

## ◆実施概要

期間:平成22年2月6日～7日

場所:鳥取県大山国際スキー場

指導者:高知県スキー連盟指導員・障害者スポーツ指導員

内容:雪遊び・スキー体験

## ◆参加者数 26名

## ◆活動の様子



## ◆評価

スキーは障害者が行うには、「低温という厳しい環境での活動ということや、怪我・事故の危険性など、気を抜くことはできない」、「障害の種別に応じた指導が必要で、どうしても多くのスタッフが必要であり、費用もかかる」など様々な障壁がある。ただ、今回参加した方々は、いろいろな困難を克服しながら、また、周囲のサポートにも支えながらのびのびとスキーを楽しんでいた。

## その他の取組

- ・ジョギングウォーキング教室
- ・エアロビ教室(出前型)
- ・ヨット教室
- ・ユニバーサルスポーツフェスティバル2010in西部



## 本事業の成果

○小学、中学、高等学校の総合的な学習の時間や「高知県自閉症協会」、「難聴児を持つ親の会」、「高知市手をつなぐ育成会」などの障害者団体、また、「県市町村社会福祉協議会」等が実施するスクール等に出向き、障害者スポーツ及び総合型クラブの現状について知ってもらうために、「障害者スポーツ体験教室」を開催した。本年度は46回実施し、指導者・サポートを含めて2,863名の参加を得た。

昨年度からの課題であった市町村レベルへの広がりについては、上記の障害者団体、県市町村社会福祉協議会、医療機関等での開催が多くなり、着実に県全体に広がってきた。

県全体に広がりつつあるこのプロジェクトは、クラブ自らが積極的に地域へ出向くことにより、クラブの存在をアピールでき、障害者の理解にも繋がる意味あるプロジェクトに発展した。

また、学校では、日頃から総合学習の時間において福祉教育(車椅子体験やアイマスク体験等)に取り組んでおり、スポーツを通じて、体力や自信をつけて社会復帰や社会生活に適応していった人たちの姿や、障害当事者からの生の声は、生徒や保護者の心に響くものであり、障害者が身近な地域でスポーツに親しむことができる環境づくりに繋がるものであった。

○高知チャレンジクラブは、将来的に県東部、西部にもクラブの支所的役割を担う総合型クラブの立ち上げを目指している。平成22年1月には四万十市に「ユニバーサル四万十」が設立し、県西部(幡多地区)の拠点として活動し始めた。ユニバーサル四万十の代表者は平成19年度から、プロジェクト委員として本事業の企画運営に携わっており、県西部における障害者スポーツの普及・発展のために尽力しているキーパーソンである。

昨年度、初めて実施した「ユニバーサルフェスティバルin西部」を障害者スポーツへの理解を深めると総合型クラブの普及・啓発等のために、本年度も同じ会場(黒潮町:土佐西南大規模公園)で実施した。このイベントは、「子ども・高齢者・障害者」の相互理解を深めるとともに、様々なスポーツ活動を通じて運動・健康への関心を高めることを目的として開催したものであり、障害者の高いパフォーマンスを間近で見ることにより、障害がある人の可能性、人間の可能性を地域住民に感じてもらう良い機会となった。

オープニングイベントでは、四万十市の郷土芸能である「土佐中村一条太鼓」の素晴らしい演奏が披露され、本年度、全国車椅子駅伝8位の「土佐銀輪倶楽部」のデモンストレーションや駅伝交流大会(22チーム参加)など、多彩なプログラムが用意されており、「高知チャレンジクラブ」と「ユニバーサル四万十」の活動PRにも繋がった。スタッフとして、町まちづくり課職員、社会福祉協議会関係者や体育指導委員、更には、若者サポートステーション事務局員が参加しており、確実に障害者スポーツの認知が深まってきたと感じる。

一方、東部地区では、本年度初めて「ユニバーサルフェスティバルin東部」を安芸郡安田町で開催し、東部地区での総合型クラブの広がりや障害者スポーツの普及を目指した。

このイベントには、北京パラリンピック日本代表の木谷隆行選手を迎え、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障害者のために考案されたスポーツである「ポッチャ」を体験した。「ポッチャ」については、中・高齢者の健康・体力を保持増進するための運動指導にも活用できるものであり、今後の指導者育成プログラムに取り入れることができる内容のものであった。

このフェスティバルには、子どもから高齢者まで、また、障害の有無に関わらず277名の参加があり、特に、東部地域を中心とした障害者スポーツの発展とスポーツを中心とした地域の活性化、また、今後、東部地域の障害者スポーツの拠点となり得る、東部地区各社会福祉協議会及び東部地区各総合型地域スポーツクラブとのネットワーク化に繋がるイベントであった。

○高知県特有の豊かな自然環境を利用した、障害の有無に関わらず誰もが参加できるマリンスポーツの普及・発展を図るためには、優秀な指導者の育成が必要であることから、本年度は9名(県内6名、県外3名)の参加により「サポートダイバー養成講習会」を開催した。

平成19年度に養成した4名の「JBDA公認初級指導員」が講師となり、20・21年度で合計23名の「JBDAサポートダイバー」の養成に繋がった。指導力の高い指導者のもとで、障害のある方は、安心してスポーツに取り組むことができる。昨年度に引き続き高知大学医学部の学生が受講しており、医学的知識を備えたサポートダイバーの養成に繋がった。

講習会終了2週間後に実施した「バリアフリーダイビング体験教室」では、先の養成講習会を修了したサポートダイバーや障害者スポーツ指導員等のサポートのもと、6名(肢体不自由者3名、視覚障害者3名)の参加があり、全国的にも稀な、障害者のマリンスポーツの普及に努めた。前述の通り、平成22年1月には県西部に「ユニバーサル四万十」が設立しており、ダイビングの拠点として活動し、全国展開を図っていく予定である。

○高知県では「高知県障害者計画」を策定し、障害のある人が、地域社会の中で障害のない人と同じように社会の一員として生活を営み、行動できる社会づくりを目指すという考え方である「ノーマライゼーション」を基本理念として、障害のある人もない人もお互いに尊重し、理解し、助け合いながら自己実現をすることができる「共生社会」を目標に様々な事業に取り組んでいる。

本事業を3年間実施してきたことにより、健常者も障害者も一緒にスポーツを親しめる環境づくりが徐々にではあるが整備されてきた。県中部に「高知チャレンジクラブ」、西部に「ユニバーサル四万十」、そして、東部にも同様のクラブが設立し、三者連携のもと、地域住民に、より心のこもったプログラムが提供されることになるであろう。

## 本事業の課題と今後の取組

○「障害者スポーツ体験教室」は、この3年間で、学校レベルから障害者団体や市町村での開催に広がり始めた。これからは、広がった後、「教室」が定着し、日常生活に根ざした障害者スポーツの推進に繋げていく必要がある。

○県東部での障害者スポーツの広がりが十分でない現状があることから、本年度、「ユニバーサルフェスティバル2009in東部」及び「エアロビ教室」を県東部地区で開催し、障害者スポーツの普及や総合型クラブの啓発に努めた。今後は、県東部各市町村教育委員会・社会福祉協議会・体育指導委員協議会・総合型クラブ等の連携を深めていくとともに、ネットワークづくりに向けた取り組みを行い、県東部における障害者スポーツの普及に努めていく必要がある。

○本事業の目玉として実施したダイビング関連事業については、今後も継続して実施し、全国展開を図りたいと考えている。経費、指導者等の問題があるが、県障害者スポーツ指導者協議会との連携を深め、継続した指導者の養成等、ダイビングの普及・発展のために取り組んでいく必要がある。

○ダイビング体験教室と同じく体験型教室として、「雪遊び・スキー体験教室」を鳥取県大山で実施した。今回の教室は、障害者(児)及び健常者(児)が日頃、南国高知県ではあまり体験できない雪遊びやスキー体験を通して、感性豊かな心を育むこと、また、参加者同士の交流・情報交換等を目的に開催した。

スキーは障害者が行うには様々な障壁がある。例えば、「低温という厳しい環境での活動ということや、怪我・事故の危険性など、気を抜くことができない」、「障害の種別に応じた指導が必要で、どうしても多くのスタッフが必要であり、費用もかかる」などの意見がある。ただ、今回、参加した障害者は、いろいろな困難を克服しながら、また、周囲のサポートにも支えられながらスキーを楽しんでいた。指導者の育成、移動手段等スキーを取り巻く問題は多々あるが、「今までできなかったことが、できるようになった」といった達成感を味わわせることは非常に大切なことである。そのためにも、皆が一緒にスキーに親しむことができるような環境の整備に努めていく必要がある。

○「いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも」が総合型クラブの理念である。障害者が中心となったクラブに障害者が集まるのではなく、それぞれの地域にあるクラブが障害者スポーツ普及のためのノウハウをもち、障害者を受け入れていくことが本来の姿であると考え。今後、更に、総合型クラブ間の連携を深め、子どもから高齢者、障害者などすべての県民が、ともに支え合いながら生き生きと暮らすことができる地域づくりを推進していく必要がある。

(本件問合せ先:とさ広域スポーツセンター TEL:088-821-4929)